かみかわの歴史・発見!!

第17回　縄文時代の食器棚をのぞいてみよう！！　～平遺跡～

問合せ　生涯学習課　文化財担当　☎/FAX 0274-52-2586

実はあまり知られていない神川の縄文時代！！

神川町の歴史と言えば、青柳古墳群や武蔵七党・安保氏、金鑚神社、大光普照寺、阿久原の牧を思い浮かべる方が多いと思います。皆さんは約1300～1400年前の古墳時代よりも遥か昔の縄文時代から神川の地に人々が暮らしていたことを知っていましたか？

今回の「歴史・発見!!」は、縄文時代に平遺跡の人々が使用していた土器を中心にとりあげます。

縄文時代とは？

草創期	早期	前期	中期	後期	晩期
約13000年～10000年前	約10000年～6000年前	約6000年～5000年前	約5000年～4000年前	約4000年～3000年前	約3000年～2400年前

長い間続いていた氷河期が終わり、温暖化へと移るころ人びとが土器を使い始めました。縄文時代の始まりです。縄文とは、土器の表面に縄を転がして付けた文様のことで、縄文が施された土器を使用していた時代を縄文時代といいます。縄文時代は、紀元前13,000年頃から約1万年以上も続き、土器の形や文様の特徴から草創期・早期・前期・中期・後期・晩期に分けられています。

縄文時代の人の食器棚（すべて平遺跡から出土したものです）

※写真右下の数値は（高さ×幅）になります。

神川町の縄文時代の遺跡

町には縄文時代初めの草創期から人びとが住んでいました。町内で見つかっている最も古い土器片は早期のもので、神川げんきプラザ周辺に広がる池田遺跡（大字池田・二ノ宮）と杉ノ嶺遺跡（大字下阿久原）で見つかっています。

神川地区の縄文時代の遺跡は、池田遺跡のほかに新羽根倉遺跡（大字新里）、皀樹原遺跡（大字元阿保）などがあります。池田遺跡は、埼玉県の重要選定遺跡になっています。

神泉地区の縄文時代の遺跡は、大字下阿久原に多くあり、今回紹介する平遺跡のほかに、杉ノ嶺遺跡、鍛冶ケ谷遺跡などがあります。

平遺跡とは？

大字下阿久原にあるヤマキ醸造周辺に広がる縄文時代を中心とする遺跡で、これまでに7地点で発掘調査がおこなわれ、中期の竪穴住居跡8軒や後期の敷石住居跡3軒が見つかっています。それでは、縄文時代の人びとの食器棚を見ていきましょう。

※竪穴住居→地面を掘り下げた面を床とする半地下構造の家で、縄文時代の一般的な住居です。
※敷石住居→竪穴住居の床に平たい石を敷いた住居のことで縄文時代の関東・中部地方に見られるものです。

①ミニチュア土器（晩期）

縄文人が日常使う土器に比べて極端に小さい土器のことをミニチュア土器といいます。この土器には縄文が施されてなく、作りも雑です。用途は詳しくわかっていませんが、儀礼に使用されたと考えられています。

②注口土器（後期）

細い注ぎ口をもち、やかんのような形の土器のことを注口土器といいます。用途は現在の急須、やかんなどと同じように使用されたと考えられています。しかし、土器の中に何の液体を入れていたかは不明です。

③石皿と磨石（縄文時代）

石皿と磨石はセットで使われる石器です。木の実などを磨りつぶすのに使われていました。現在のすり鉢とすりこぎ棒です。

④壺（後期）

壺は、縄文時代の後期以降に関東地方で流行する土器です。土器の口が狭いことから固形物の出し入れには不向きで液体を入れていたと考えられています。この壺は、完全な形ではなく、口の先が細長く伸びていたと思われますが欠けています。

⑤台付鉢（後期）

台付鉢は、上半分の浅鉢部分に台が付いた土器のことです。台付鉢は西日本では見られず、東日本の縄文時代後期以降に出現します。東と西の縄文時代では、流行が異なっていたようです。食物を盛り付けるのに使用されたと考えられています。

⑥⑦⑧⑨⑩⑪　深鉢（中期～晩期）

深鉢は、縄文時代をとおして最も多く作られた土器で、主に煮炊きに使用しました。深鉢は、時期ごとに形や大きさで違いを見ることができます。

ここに注目！

深鉢の変遷を見てみよう

右ページの深鉢を見てみてください。⑥・⑦・⑧は縄文時代中期の深鉢、⑨は後期の深鉢、⑩・⑪は晩期の深鉢です。時期によって形が異なるのがわかりますか？

同じ深鉢という名前でも、大きさや形はもちろん、表面の文様も時期によって異なるのが縄文土器の興味深いところです。

携帯電話に置き換えてみましょう。初期の携帯は肩から掛けて持ち運びをしていました。その後、小型化が進み、折りたたみ式やスライド式の携帯が登場するなど、その年によってトレンドがありました。同じように縄文土器も時期によってトレンドがあり、縄文人もトレンドには敏感だったようです。

他県や他市町村の展示施設に足を運んで神川町の縄文土器との違いを見てみるのも面白いと思います。

おわりに

今回は、縄文時代中期から晩期までの約2500年という長い間、平遺跡に住み続けていた縄文人が使っていた土器を紹介しました。

平遺跡の土器は、神川町中央公民館、多目的交流施設の文化財展示室にあります。展示室には縄文土器の他にも様々なものがありますので、ぜひ見に来てください！